

庄内町立図書館だより

よめっちゃ

(本をたくさん

「読んでね」との願いを込めて)

2017.01.04(No.20)



あけましておめでとうございます。

昨年は庄内町立図書館・分館（狩川公民館内）をご利用いただきありがとうございました。皆様の「読みたい。知りたい。」の期待に応えることができるよう職員一同努めてまいります。本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

館長 渡會 晃

蔵書点検のため

1/30(月)～2/6(月)

まで休館いたします。

☑ 書館カレンダー

★開館時間

平日 午前 9：00～午後 6：00

⇒休館日

土日 午前 9：00～午後 5：00

1月

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30	31				

蔵書点検前特別貸出期間

10冊まで貸出OK 1/14(土)～29(日)

2月

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28				

おはなしらんど ★ たのしいおはなし会

★開催日：1/18(水)・2/15(水)

★会場：図書館ホール 10：00～



庄内町内藤秀因水彩画記念館

1月14日(土)より開催する展覧会をご紹介します

題字…後藤 流星
画像(上)…鈴木 唯「獄楽地極図」(下)…佐藤 亜佑実「優し
さも愛しさも」



庄内総合高校芸術展

2017.1.14(土) - 1.29(日)

本展では庄内総合高等学校の美術部・書華道部による作品および美術の授業で制作された絵画、彫刻、写真、映像作品等をご覧いただけます。地域の高校生の活躍をぜひご覧ください。

余目第三学区の町探検史が完成!

佐藤昌紀さん(仲町)が余目第三学区の「町探検史」を制作、町立図書館にご寄贈下さいました。

三小で「町探検」という授業がある中、町外出身の先生から各集落のことがよくわからないという声を聞いたことが制作のきっかけだそうです。制作期間は約半年。取材のために各集落はもちろん、尾花沢市や真室川町にも足を運んだとのこと。どの集落でも地域の方が自分の住む集落に誇りを持って語ってくれたり、資料を提供してくれる姿に胸を打たれたそうです。

この「町探検史」が先生と生徒、地域の人たちの心の架け橋となるように、子どもたちから集落や庄内町を自分たちの手で守り、発展させていく、そんな大人に育ってほしいとの願いをこめて制作にあたったとのこと。

こちらの資料は図書館内でご覧いただけます。



お問い合わせ 図書館・内藤秀因水彩画記念館

43-3039

分館 56-3308

図書館 HP → <http://www.town.shonai.lg.jp/library/>

職員のおすすめ本は今年の干支にちなみまして

と り

『ぶつよ！ 奇跡の焼き鳥屋「鳥重」名物お母さんの元気が出る言葉』 店主 東山 としこ/著（講談社）

東京渋谷「のんべえ横丁」の『鳥重』という店は、数多くの有名人・芸能人が予約して通う「食べログ1位」の焼き鳥屋。店主の名物お母さんが発する珠玉の言葉が満載。



メジャーリーガーのイチローやとんねるずの石橋貴明、俳優の唐沢寿明や赤井英和、写真家の浅井慎平や司会者の関口宏等々。有名人や芸能人とのやりとりやエピソードがまた面白い。



この本を読んで、焼き鳥でも食べながら今年も元気にスタートしましょう。

『たまごにいちゃん』 あきやま ただし/作・絵（鈴木出版）

もうたまごからでていないといけないのに、ヒビが入っても絶対に殻を割ろうとしないたまごにいちゃん。それはたまごであればお母さんに温めてもらえるから。そこには「まだお母さんに甘えたい、赤ちゃんでいたい」という思いがある。ある日、大事にしてきた殻が割れてしまってショック！自分が一番かわいがられていたのに、妹・弟が生まれてお兄ちゃん・お姉ちゃんになった子は同じ気持ちかな。でも少しはずかしそうにしながらも、殻を脱いだ姿をほめられてうれしそうな様子にキュンとせつなくなります。シリーズで他に11作ございます。あわせて読んでみて下さいね。



『北斎と広重 第7 花鳥風月』 榎崎 宗重/著（講談社）

本書には、北斎と広重の描いた花鳥画約100点が紹介されています。浮世絵には木版画と肉筆画という2つの表現方法があります。彫と摺の技巧を駆使して作られた木版画と、絵師の高い筆力が感じられる肉筆画、本書ではその両方を見ることができます。

近世絵画における「鳥」といえば、昨年話題になった伊藤若冲の作品を思い浮かべる方が多いかもしれませんが、北斎や広重の手がけた花鳥画は若冲とはまた違う、穏やかな美しさに満ちています。

北斎や広重は知っているけれど、彼らの花鳥画や肉筆画は見たことがない、という方にはぜひご覧いただきたい作品集です。



今年もスタートして幾日が過ぎました。我々スタッフ一同、大空を舞う鳥のような飛躍の年にしたいものです。こちらで紹介した本はすべて当館にございます。予約もできますのでカウンターまでお問合せください♪



鳥にもいろいろありまして、あんな鳥やこんな鳥…あなたにぴったりの鳥はおりましたでしょうか？

『池澤夏樹＝個人編集 日本文学全集 07 枕草子 方丈記 徒然草』 酒井 順子, 高橋 源一郎, 内田 樹/訳（河出書房新社）

「正月一日は、まいて空のけしきもうらうらとめづらしう…」かの清少納言はこう記しておりますが、皆様うらかな新年をお迎えでしょうか。

今年も西年。『枕草子』の「鳥は」の段を見ると、オウムやほととぎす、鶯、山形県鳥おしどりまで、実に様々な種類が登場します。五感の鋭敏な清少納言らしく、目で見る美しさ、聴覚のゆかしい記憶などがそこかしこにあふれ、一気に雅な宮廷生活に引き込まれます。

ところで貴方は清少納言派？ それとも紫式部派？ 時に自己顕示欲の強さを指摘されがちな清少納言で

すが、私は胸のすくような彼女の機智に魅かれます。

昨年11月、人気作家酒井順子氏による現代語訳も出版されました。是非手にとってみてください。



『カラスの補習授業』 松原 始/著（雷鳥社）

著者の熱すぎるカラス愛が詰まったお気に入りの1冊です。生態や形態など、ものすごく学術的な内容なのに読みやすいのは、著者のユーモアあふれる文章と、担当編集さんによる可愛いカラスのイラストのおかげです。ところどころに映画、コミックなどエンタメの小ネタも散りばめられており、註釈はカラスについてより小ネタの解説が多め…。(笑) 読めば、このカラスはハシトガラス？ ハシボソガラス？ はたまた子育て中？ と観察してしまうかも…。



『ふしぎな鳥の巣』 鈴木 まもる/文・絵（偕成社）

鳥にとって巣は子育ての大切なお家です。寒さと、卵やヒナを狙う外敵から守るための色々な工夫に心底驚かされます。クモの糸で葉をぬったり、マンション風の大きな形や、偽ものの入口を作ったりと、鳥には感心させられてしまいました。数年前、自宅の庭にヒヨドリが巣を作り、私は親鳥に襲われましたが、無事ヒナが巣立った時は感激しました。鳥が巣を作る家には、福が来るそうなので、今年も来てね。

